

あとがき

京都洛西の小都市・向日市に、NPO「向日庵」が設立されたのは、2017年7月のことでした。以来、地元はもちろん、全国各地の寿岳一家を愛する多くの皆さまのお力を得て、「向日庵」の催しも多彩に広がってまいりました。

この間、2018年までに行われた講演記録『向日庵』第2集をお届けします。

今号の巻頭には、中島俊郎理事長の「向日庵」の設立記念講演が掲載されています。寿岳文章一家の文化的な営みに触れ、法人設立の意義やその方向性について提起していただきました。

さて、今回は和紙研究の講演録を多数収めることができました。兵庫県の多可町からは、寿岳先生の和紙にかけた情熱を受け継ぎ、地域から調査研究と和紙文化の発信をされている活動をお話いただきました。また、寿岳先生が「和紙への私の理解と愛を決定的に不動のものとした」といわれる正倉院の和紙の調査や、和紙の分析についても、それぞれの専門分野から詳細な説明を受けました。いずれも和紙文化への並々な熱意が感じられる講演となりました。正倉院の和紙調査については続編が期待されます。

また、特筆すべきことは、寿岳文章先生の恩師であり、一家と深い交流のあった新村出氏、日本の民芸運動をともにし、やはり終生の交流のあった河井寛次郎氏のお二人の先駆者について、近しい縁者のお二人に講演をいただいたことです。寿岳先生の思索や人間性にもふれることができ、これはきわめて貴重なことでした。

向日庵の文化的な営みをひとつひとつ検証していく活動は始まったばかりですが、中島理事長が設立記念講演で語られている「私たちに託された、寿岳先生から継承する一つの、紡ぎだされた向日庵の糸」の手がかりは出来たと信じております。今後とも、広く会員の皆さま、文化財の保存と活用に理解をお寄せくださる個人・団体の皆さまのご協力を期待したいと思っております。

最後になりましたが、7回にわたる講演会に、講師として快く応じていただき、資料の作成と講演録の校正にもご協力くださいました先生方には、あらためて御礼を申し上げます。また遠方から熱心にご来聴いただいた方々にも、寿岳一家を通じてさまざまな巡り合わせに感謝いたします。そして編集とテープおこし携わっていただきました中島俊郎理事長、事務局の長野裕子氏にお礼を申し上げます。なお、この冊子の発行については「京都府文化力チャレンジ補助事業」の助成を受けていることを感謝とともに明記しておきます。

春立つときに

特定非営利活動法人向日庵事務局 長尾 史子